

鹿児島県三島村黒島2001年6月の昆虫類

福田晴夫・廣森敏昭

Insects Recorded in June, 2001 in Kuroshima-Is, Mishima-mura, Kagoshima-Prefecture.

Haruo FUKUDA and Toshiaki HIROMORI

はじめに

鹿児島県三島村黒島は枕崎の南南西55kmの東シナ海にある。島の概形は東西に長い楕円形で周囲15.2km，面積15.65km²，最高峰の櫓岳(621.9m)をはじめいくつかの峰があり，小河川も多い。東の硫黄島，竹島とともに三島と呼ばれ，同じ行政区に入っているが，鬼界カルデラの一部とされる後2島と比べると，生物相はより豊かで多様性に富んでいる。しかし，昆虫類に関する調査記録が見られるのは1970年以降で，しかもチョウ，甲虫，トンボ，セミ類の一部に限られている。それでも文末の文献に示すような近年の調査によって，チョウ類，甲虫類（クワガタムシ科，カミキリムシ科など），トンボ類はかなりその実態が明らかになった。

筆者らは「触れ見る知る博物館資料収集整備事業」の一環として，2001年6月に黒島の昆虫調査及び資料収集を行った。ここに同定ずみの昆虫について，標本と情報の収集結果および若干のコメントを付し報告する。いずれ機会を別にして，未同定の種の記録に文献記録を加えて，この島の昆虫相の検討を行いたい。

1 2001年6月の調査状況

(1) 調査日程

4日間，民宿（つばき）の車を借りて島内を移動し，いくらかの環境を選んで採集や調査を行なった。大部分はネットによる任意採集，ほかにベイトトラップ（バナナ果肉），灯火採集。

6月26日（曇り夕方一時雨）：鹿児島港（9：00）→黒島・片泊港（15：50）。16時過ぎから，一通り状況を見るため片泊から北回り道路を大里まで行き，引き返して中里林道を南道路に出て片泊にもどる。夜は片泊で灯火採集（20～22時）。

27日（曇り時々晴，一時雨）：中央林道と横岳山（標高590m）の中央山地帯および大里から片泊への南道路を調査。夜は中央林道で灯火採集（20～22時20分）。

28日（曇り時々晴，山地は小雨）：片泊から大里までの北道路，さらに中央林道を経て南道路も調査。

29日（曇りのち晴）：片泊集落周辺と海岸を調査。

30日（曇りのち晴）：片泊港（8：00分）→鹿児島港

(2) 調査地の環境

全体的には樹林に覆われた島かと思っていたが，予想以上に竹で覆われた部分が多く，残

された樹林を求めての採集となった。天然林は海岸近くの断崖（ウバメガシ、ビロウ等）と山岳部（スダジイ、アカガシ等）に残っており、特に片泊と大里を結ぶ中央林道沿いにはまだ樹林が残っていたが、新しい道路工事等も行われていた。海岸沿いの周囲は、リュウキュウチクやクロマツの二次林や放牧地となっている。

主な調査地点 標高は実際に調査した範囲を示す。

A. 片泊海岸 (0-100m)：海辺の岩礁、菅尾神社（アコウ、モクタチバナ、ホルトノキ、タブノキ、ヤブニッケイ、シマグワ、ハマビワ、イヌビワなどの樹林）、リュウキュウチク群落、路傍にはボタンボウフウ、ハマサルトリイバラ、ハマナタマメ、シバハギ、ハチジョウススキなど。

B. 片泊集落 (100-200m)：人家周辺には草花、少ないが畑にはサツマイモ、キュウリ、果樹のミカン sp. 小さい流れもある。

C. 北道路なご川 (100-200m)：リュウキュウチク群落。舗装道路。

D. 北道路冷水川・牧場 (100-200m)：リュウキュウチク群落。川の周囲にわずかに樹林が残る。その組成はモクタチバナ、ホルトノキ、イヌビワ、ハゼノキ、ムラサキシキブ、そしてオガタマノキが1本。その西側道路上は大規模な崖の土木工事中。東は牧場、その日陰林はスダジイ、クロマツ、ソメイヨシノ、ホルトノキ。路傍にはシバハギ。

E. 北道路中里 (200-500m)：中黒川沿いに樹林が残る、中里集落（人家は1軒）にはスダジイ、タブノキ、オガタマノキの大木がある。その南の林道入口付近にはシイタケ栽培地（樹林）があり、路傍にはオガタマノキの小木2本をみつけた。低地の北道路を東に行くと大規模な人工の崖があり、吹き付け植物と思われるシロツメクサ、タチメドハギなどが繁茂している。川沿いにはわずかに樹林が残る。

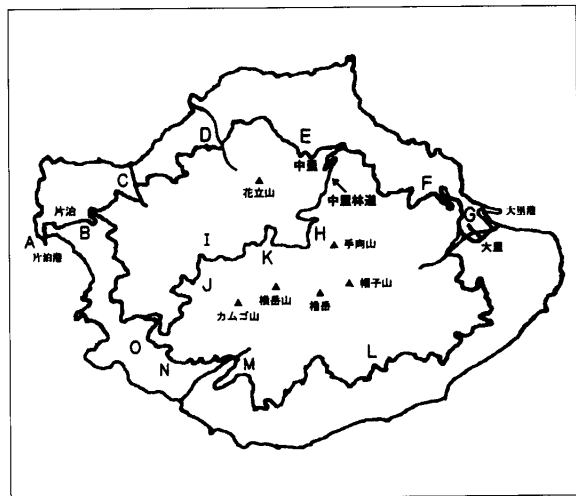
F. 北道路大里上 (100m)：竹群落の中の道路で、シバハギなどがあるが、通過したのみ。

G. 大里集落 (0-200m)：宮間川沿いに人家が段階状にまとまっており、栽培植物も多い。モンキチョウのいたへりポートは草地でヒメコウライシバ、シロツメクサ、ヤハズソウ、ネジバナ、土手にはボタンボウフウ、ツルソバ、シバハギ、ツツジなど。畑にはキャベツもあり、モンシロチョウが来ていた。

H. 中里林道 H 地点 (100m)：手向山の西にあたる。道路が400m付近まで高度を上げて、スダジイ林が残る。ここからI地点まで5カ所にバナナトラップを設置する。

I. 中里林道 I 地点 (350m)：ガムコ山の西に位置する地点で、川沿いの樹林近くの林道で、灯火採集を行なった。下の一周道路は大川（日暮川）周辺に僅かに樹林が残る。

J. 中里林道 J 地点 (300m)：I 地点よりさらに南へ200mほど下った地点で高さ2～3mのカラ



黒島地図及び調査地点

スザンショウが10本ほどと、イヌビワが5本ほどであった。

K. 中里林道横岳山 (400-590m) 入口：400m等高線沿いの林道 (舗装) と横岳山を経て櫓岳への登山道がある。林道沿いは溪流を中心に樹林が残されているが、優占種はスダジイ、アカガシなどである。登山道は年に2~3回程度手入れをすることであるが、梅雨明けに近い6月下旬はリュウキュウバライチゴなどが繁茂して^{やぶこ}藪漕ぎでも通行困難であった。今回は横岳山を過ぎたところで引き返す。登山道入り口付近にバナナトラップを設置する。

L. 南道路東 (100-200m)：竹群落の中に少しばかりの耕作地 (サツマイモなど) と牧場がある。ほとんど通過したのみ。

M. 南道路中央 (100-200m)：山道を湧き水が流れており、150mほど山側に上るとオオシオカラトンボが数頭いた。谷筋に樹林が残る。

N. 南道路南 (100m)：竹群落。通過したのみ。

O. 南道路西 (100-400m)：大里林道の南部入口上では吹付植物を思われるイタチハギ、マルバハギが繁茂する。一周道路周辺は竹群落であるが、大部分は竹群落と牧場。路傍にこれも吹付の名残と思われるカワラケツメイ群落がつながる。牛の水飲み場が湿地になり、イグサ群落があったがトンボ類はオオシオカラトンボのみ。

(3) 調査結果

個体数は 頭数を明記するほか、多い(+++), 普通(++), 少ない(+)で表示する。採集・目撃地は地点のアルファベットを記している。

同定は筆者らが行い、ガ類の一部は日本蛾類学会員の福田輝彦氏と柳田慶浩氏に、直翅類は当鹿児島県立博物館長の畑田健治氏と元鹿児島県立博物館指導員の山下秋厚氏に、カミキリムシは日本鞘翅目学会員の森一規氏に依頼した。同定に協力していただいた5氏に感謝申し上げます。なお、標本は全て鹿児島県立博物館に保管してある。

I トンボ目 ODONATA (2科3種)

<オニヤンマ科 Cordulegasteridae >

1 ミナミヤンマ *Chlorogomphus brunneus costalis* (1♂・南道路 M・VI.28)

<トンボ科 Libellulidae >

2 オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania*

(1♂他に2頭目撃・南道路 M・VI.28)

3 ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (目撃・北道路 C・VI.26)

II ゴキブリ目 BLATTARIA (1科1種)

<マダラゴキブリ科 Epilampridae >

4 マダラゴキブリ *Rhabdoblatta quttigera* (2頭・B片泊・VI.28・29)

III バッタ目 ORTHOPTERA (5科8種)

<ケラ科 Gryllotalpidae >

- 5 ケラ *Gryllotalpa fossor* (1頭・中里林道 I・VI.27灯火採集)

<コオロギ科 Gryllidae >

- 6 ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus ?arietulus* (1♀・B片泊・VI.26灯火採集)

- 7 タンボコオロギ *Velarifictorus parvus* (1♂1♀・B片泊・VI.26灯火採集)

<キリギリス科 Tettigoniidae >

- 8 サトクダマキモドキ *Holochlora japonica* (1♂・中里林道 I・VI.27灯火採集)

<バッタ科 Acrididae >

- 9 ショウリヨウバッタ *Acrida cinerea* (2♂・B片泊・VI.29)

- 10 マダラバッタ *Aiolopus Tamulus* (1頭・B片泊・VI.29)

<ヒシバッタ科 Tetrigidae >

- 11 ハネナガヒシバッタ *Euparattix insularis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

- 12 ヒシバッタ *Tetrix japonica* (1頭・B片泊・VI.29)

IV ナナフシ目 PHASMIDA (1科1種)

<ナナフシ科 Phasmatidae >

- 13 トビナナフシ *Micadina phluctaenoides*

(1♂1♀・中里林道 J・VI.27, 1♂1♀・北道路 D・VI.28)

V ハサミムシ目 DERMAPTER (1科1種) A

<ハサミムシ科 Anisolabididae >

- 14 ハサミムシ sp (コヒゲジロ?) (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

VI カメムシ目 HEMIPTERA (7科12種)

<セミ科 Cicadidae >

- 15 ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis chibensis* (1脱け殻・B片泊・VI.27)

- 16 ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* (6♂1♀・ほぼ全島で見られた・VI.26・27・28・29)

<アメンボ科 Gerridae >

- 17 シマアメンボ *Metrocoris histrio* (2頭・B片泊・VI.28)

<メクラカメムシ科 Miridae >

- 18 フタモンアカメクラガメ *Lygocoris hilaris* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<ナガカメムシ科 Lygaeidae >

- 19 オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* (2頭・B片泊・VI.29)

<オオホシカメムシ科 Largidae >

- 20 ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis*

<ヘリカメムシ科 Coreidae >

- 21 ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca* (6頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<カメムシ科 Pentatomidae >

- 22 アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* (1頭・南道路M・VI.28)
23 アヤナミカメムシ *Agonoscelis nubila* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)
24 タイワントゲカメムシ *Carbula crassiventris* (1頭・B片泊・VI.29)
25 チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)
26 トゲシラホシカメムシ *Eysarcoris aeneus* (2頭・北道路D・VI.26)

VII コウチュウ目 COLEOPTERA (15科51種)

<ハンミョウ科 Cicindelidae >

- 27 エリザハンミョウ *Cicindela elisae* (2頭・A片泊・VI.29)
28 コハンミョウ *Cicindela specularis* (4頭・中央林道J・VI.27)

<オサムシ科 Carabidae >

- 29 オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchanani*
(1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
30 セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
31 ヒメケゴモクムシ *Ophonus jureceki* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)
32 オオアトボシアオゴミムシ *Chlaenius micans* (2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
33 アオヘリホソゴミムシ *Drypta japonica* (3頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<ホソクビゴミムシ科 Brachinidae >

- 34 ミイラデゴミムシ *Pheropsophus jessoensis* (1頭・E中里集落・VI.28)

<シデムシ科 Silphidae >

- 35 オオモモブトシデムシ *Necrodes asiaticus* (2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<クワガタムシ科 Lucanidae >

- 36 マメクワガタ *Figulus punctatus* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
37 ノコギリクワガタ(シマイイサ) *Prosopocoilus inclinatus* (2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<コガネムシ科 Scarabaeidae >

- 38 カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* (2頭・B片泊・VI.26灯火採集)
39 セスジカクマグソコガネ *Rhyparus azumai* 6頭
(4頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
40 フタスジカンシヨコガネ *Apogonia bicarinata* 5頭
(2頭・B片泊・VI.26灯火採集, 3頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
41 クロコガネ *Holotrichia picea* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)
42 アオドウガネ *Anomala albopilosa albopilosa* 6頭

(4頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

43 ヒメサクラコガネ *Anomala geniculata* 8頭

(4頭・B片泊・VI.26灯火採集, 4頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

44 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 1頭 (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

45 オキナワコアオハナムグリ *Oxycetonia forticula forticula* 4頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 3頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

46 シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

47 カナブン *Rhomborrhina japonica* (3頭・B片泊・VI.29バナナトラップ)

<コメツキムシ科 Elateridae >

48 サビキコリ *Agrypnus binodulus* 3頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

49 ヒメサビキコリ *Agrypnus scrofa* (1頭・G大里・VI.28)

50 フタモンウバタマコメツキ *Paracalais larvatus pini* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

51 クシコメツキ *Melanotus legatus* 5頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 4頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<ケシキスイ科 Nitidulidae >

52 アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus* (10頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<テントウムシ科 Coccinellidae >

53 ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata* 4頭

(1頭・北道路F・VI.26, 3頭・DG・VI.28)

54 ナミテントウ *Harmonia axyridis* (1頭・G大里・VI.28)

55 ニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctopunctata* (1頭・B片泊・VI.29)

<カミキリモドキ科 Oedemeridae >

56 キクビカミキリモドキ *Xanthochroa atriceps* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae >

57 アカモンキゴミムシダマシ *Diaperis sanguineipennis* (7頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

58 シワナガキマワリ *Strongylium japanum* 2頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 1頭・G大里・VI.28)

59 ヤクシワナガキマワリ *Strongylium yakushimae* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<カミキリムシ科 Cerambycidae >

60 ノコギリカミキリ *Prionus insularis insularis* (1♂・B片泊・VI.28)

61 ツシمامナクボカミキリ *Cephalallus unicolor* 7頭 (2♂3♀・中央林道I・VI.27灯火採集, 1♂1♀・B片泊・VI.29)

62 トゲヒゲトビイロカミキリ *Allotraeus rufescens* (1♀・B片泊・VI.28)

63 リュウキュウヒメカミキリ *Ceresium fuscum fuscum* 8頭 (2頭・B片泊・VI.26灯火採集, 4頭・中央林道I・VI.27灯火採集, 2頭・B片泊・VI.29)

- 64 キイロミヤマカミキリ *Margites fulvipes* (1 ♀・B 片泊・VI.28)
- 65 ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis* 8 頭 (1 ♂・B 片泊・VI.26 灯火採集,
2 ♂ 1 ♀・B 片泊・VI.28, 2 ♂ 2 ♀・B 片泊・VI.29)
- 66 オオキハネナシサビカミキリ *Pterolophia izumikurana* (4 頭・B 片泊・VI.28)
- 67 サビアヤカミキリ *Abryna obscura* (2 頭・E 中里 VI.26, 5 頭・B 片泊・VI.29)
- 68 ウスアヤカミキリ *Bumetopia oscitans* (1 頭・中央林道 I・VI.27 灯火採集)
- 69 ヤクキボシカミキリ *Psacotha hilaris insularis* 3 頭 (1 ♂ 屍体・北道路 D・VI.26, 1
♂・B 片泊・VI.28, 1 ♂・B 片泊・VI.29)
- 70 クロオビトゲムネカミキリ *Sciades fasciatus* (1 頭・B 片泊・VI.28)
- 71 リュウキュウルリボシカミキリ *Glenea chlorospila* (1 頭・B 片泊・VI.26 灯火採集)
- <ハムシ科 Chrysomelidae >
- 72 ウリハムシ *Aulacophora femoralis* (1 頭・VI.27)
- 73 ウスイロサルハムシ *Basilepta pallidula* (1 頭・B 片泊・VI.26 灯火採集)
- <ゾウムシ科 Curculionidae >
- 74 ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis* (1 頭・中央林道 J・VI.27)
- 75 シロアナアキゾウムシ 4 頭 (2 頭・北道路 D・VI.26, 2 頭・中央林道 J・VI.27)
- 76 クチブトゾウムシ *sp* (10 頭・北道路 F・VI.28) リュウキュウバライチゴの葉を集団食害
- <オサゾウムシ科 Rhynchophoridae >
- 77 オオシロオビゾウムシ *Cryptoderma fortunei* (1 頭・B 片泊・VI.26 灯火採集)

VIII ハチ目 HYMENOPTER (5 科 6 種)

- <ミフシハバチ科 Argidae >
- 78 ルリチュウレンジ *Arge similis* (1 頭・E 中里・VI.28)
- <コシブトハナバチ科 Anthophoridae >
- 79 クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* (2 頭・B 片泊・VI.29)
- <ツチバチ科 Scoliidae >
- 80 キオビツチバチ *Scolia oculata* (1 頭・中央林道 K・VI.27)
- 81 アカアシハラナガツチバチ *Megacampsomeris mojiensis* (1 頭・中央林道 J・VI.27)
- <ベッコウバチ科 Pompilidae >
- 82 ベッコウバチ *Cyphononyx dorsalis* (1 頭・中央林道 J・VI.27)
- <アナバチ科 Sphecidae >
- 83 キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum kohli* (1 頭・G 大里・VI.28)

IX ハエ目 DIPTERA (1 科 1 種)

- <ムシヒキアブ科 Asilidae >
- 84 シオヤアブ *Promachus yesonicus* (1 ♂・E 中里・VI.28)

X チョウ目 LEPIDOPTER (19科89種) A

ガ類 (13科71種)

<マルハキバガ科 Oecophoridae >

85 チャノキホリマルハキバガ *Cosmara patrona* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<ハマキガ科 Tortricidae >

86 チャノコカクモンハマキ *Adoxophyes sp* (2頭・B片泊・VI.26灯火採集)

87 アトキハマキ *Archips audax* 4頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 3頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

88 ヨモギネムシガ *Epiblema foenella* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<マダラガ科 Zygaenidae >

89 オキナワルリチラシ *Eterusia aedea* 3頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<メイガ科 Pyralidae >

90 シロマダラノメイガ *Chabula onyclinalis* 2頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

91 タイワンモンキノメイガ *Sylepta taiwanalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

92 ヨスジノメイガ *Pagyda quadrilineata* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

93 モンキシロノメイガ *Cirrhochrista brizoalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

94 クロスジノメイガ *Tyspanodes striata* 2頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

95 クロミスジノメイガ *Hedylepta similis* (3頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

96 シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

97 シロモンノメイガ *Bocchoris inpersalis* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

98 フタホシノメイガ *Glyphodes bipunctalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

99 アオフトメイガ *Orthaga olivacea* 6頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 5頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

100 フキノメイガ *Ostrinia scapularis* (1頭・北道路D・VI.28)

101 チビスカシノメイガ *Glyphodes pyloalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

102 マエアカスカシノメイガ *Palpita nigropunctalis* (1頭・B片泊・VI.26灯火採集)

103 ウスグロノメイガ *sp Bradina sp* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

104 マツアカマダラメイガ *Dioryctria pryeri* (2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

105 ハングロキノメイガ *Pleuroptya characteristica* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<カギバガ科 Drepanidae >

106 スカシカギバ *Macrauzata maxima* 3頭

(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

107 アカウラカギバ *Hypsomadius insignis* (1頭・中央林道I・VI.27灯火採集)

<シャクガ科 Geometridae >

- 108 ウスクモエダシャク *Menophra senilis* (3頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 109 ウスアオシャク *Dindica virescence* (4頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 110 マダラチズモンアオシャク *Agathia lycaenaria* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 111 サザナミシロアオシャク *Thalassodes immissaria* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 112 ヒメツバメアオシャク *Gelasma protrusa* (2頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 113 ヨツモンマエジロアオシャク *Comibaena procumbaria* 2頭
(1頭・B片泊・VI. 26灯火採集, 1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 114 コヨツメアオシャク *Comostola subtiliaria* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 115 ソトキクロエダシャク *Scinomia mendica* (2頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 116 クロハグルマエダシャク *Synegia esther* (2頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 117 ウスチャトビモンエダシャク *Psilalcis rantaizana* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 118 オオマエキトビシャク *Nothomiza aureolaria* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 119 シモフリシロヒメシャク *Scopula coniaria* (5頭・B片泊・VI. 26灯火採集)
- 120 カバナミシャク sp *Eupithecia sp* (1頭・B片泊・VI. 26灯火採集)
- 121 ウラベニエダシャク *Heterolocha aristonaria* (2頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)

<イカリモンガ科 Calliduloidea >

- 122 ベニイカリモンガ *Callidula attenuate formosana* (1頭・南道路 M・VI. 28)

<カイコガ科 Bombycidae >

- 123 クワコ *Bombyx mandorina* 7頭
(4頭・B片泊・VI. 26灯火採集, 3頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)

<スズメガ科 Sphingidae >

- 124 クチバスズメ *Marumba sperchius* (1♀・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 125 シモフリスズメ *Psilogamma increta* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 126 コスズメ *Theretra japonica* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 127 ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta* 2頭 (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集, 1頭北道路 C・VI. 28)

<シャチホコガ科 Notodontide >

- 128 セダカシャチホコ *Rabatala cristata* (1頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)

<ドクガ科 Rymantriidae >

- 129 ヤクシマドクガ *Orgyia triangularis* (5♀・中央林道 I・VI. 27灯火採集)
- 130 マイマイガ *Lymantria dispar* 4頭 (3♂・中央林道 I・VI. 27灯火採集, 1♂・北道路 D・VI. 28)
- 131 ミノモマイマイ *Lymantria dispar* 5頭 (1♂・B片泊・VI. 26灯火採集,
3♂・中央林道 I・VI. 27灯火採集, 1♀・VI. 28)
- 132 ゴマフリドクガ *Euproctis pulverea* 6頭
(1頭・B片泊・VI. 26灯火採集, 5頭・中央林道 I・VI. 27灯火採集)

<ヒトリガ科 Argtiidae>

- 133 ツマキホソバ *Eilema laevis* 4頭
(2頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 134 ヒトテンアカスジコケガ *Bizone unipunctata* (3頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 135 クシマコケガ *Asura intermedia* (3頭・B片泊・VI.26灯火採集)

<ヤガ科 Noctuidae>

- 136 オキナワウスイロコヤガ *Azumaia micardiopsis* (13頭・B片泊集落・VI.26灯火採集)
- 137 コウスチャヤガ *Diarsia deparca* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 138 タマナヤガ *Agrotis ipsilon* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 139 ヒメサビスジヨトウ *Athetis stellata* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 140 ウラギンキヨトウ *Aletia preyri* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 141 キミヤクヨトウ *Dictyestra dissecta* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 142 マダラツマキリヨトウ *Calloplistria repleta* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 143 カラスヨトウ *Amphipyra livida* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 144 フクラスズメ *Arcte coerulea* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 145 モクメクチバ *Perinaenia accipitere* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 146 ハガタクチバ *Daddala lucilla* (2頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 147 ウスオビクチバ *Remigia frugalis* 6頭
(3頭・B片泊・VI.26灯火採集, 3頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 148 ウスグロクチバ *Avitta puncta* 3頭
(1頭・B片泊・VI.26灯火採集, 2頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 149 オオトモエ *Erebus ephesperis* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集) 片泊, 中央林道のバナ
ナトラップにも多くきていた
- 150 ミツモンキンウワバ *Acanthoplusia agnata* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 151 キンモンエグリバ *Plusiodonta coelonata* (2頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 152 クロキシタアツバ *Hypena amica* (1頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 153 ソトウスアツバ *Hadennia obliqua* (3頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 154 オオアカマエアツバ *Simplicia niphona* (3頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)
- 155 ミヤケジマヨトウ *Atrachea miyakensis* (3頭・中央林道 I・VI.27灯火採集)

チョウ類 (6科18種) *は記録があるのに発見出来なかった種類。

<セセリチョウ科 Hesperidae>

- 156 チャバナセセリ *Pelopidas mathias* またはイチモンジセセリ *Parnara guttata*
27日18時頃, 片泊 (A), 1頭目撃。; 28日, D, 1頭目撃。

両種とも9月には島内各地で目撃され (江平・小野田, 1995), 10月にはイチモンジセセリが多かった (畑田, 1987)。県下全域の低地帯で夏から秋には極めて個体数の多い種であるが,

どういふ原因か春先の成虫は少ない傾向がある。このことが黒島でも当てはまるものと推定される。

*キマダラセセリ：大里で1982年8月上旬に3♂の記録（江平，1985）がある。中之島が分布南限。

*クロセセリ：多くの記録がある。今回も食草（アオノクマタケラン，クマタケラン）は多かったものの幼生期は発見出来なかった。

*オオシロモンセセリ：迷蝶（データ不明）沖縄県黒島の誤認か？

<アゲハチョウ科 Papilionidae >

157 ミカドアゲハ *Graphium doson* （黒島初記録種）

26日，D，1♂（吸水中）；27日，I，1♀（破損個体）がオガタマノキに産卵行動をとるのを観察したが，木が崖に生えていて卵，幼虫の探索は出来なかった。28日，Dでオガタマノキに産卵中の1♀採集，中里（E）でもオガタマノキの大木（胸高直径約80cm）の周りで1♂採集ほか少数目撃。結局オガタマノキはD，Eで4本を確認。

4～5月に羽化した越冬世代の次代（第1化）成虫と思われ，個体数は多くはなかった。食樹のオガタマノキは上記のように標高200～400mあたりの中腹部樹林に広く分布しているらしいが密度は低い。中里の川沿いに残されたシイ群落の中にオガタマノキの巨木があったが，ほかのものは伐採後の2次林に生じた中程度の木であった。いずれも今年の新葉にはミカドアゲハによると思われる多数の食痕がついており，春の成虫個体数はかなり多いものと推察される。なお，人里にはカラタネオガタマ，タイサンボクは植栽されていないようで，すべてがオガタマノキ依存の個体群であろう。

158 アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

26日，B・F，+；27日，B～O～I～K，+；28日，B・C・D・E，++タブノキの周辺；29日，片泊A，タブノキの若葉に中齢幼虫死体（アリが捕食中）。成虫は普通。

食樹としてタブノキは確認したが，クスノキ科は他に9種が知られているので，なお調査が必要である。

159 キアゲハ *Papilio machaon*

27日，B，1頭目撃；28日，大里（G）のボタンボウフウに1♀が産卵。若～中齢幼虫，蛹1個を採集。蛹からは29日寄生蜂204頭が羽化。；29日，片泊（A）+。ボタンボウフウも多い。28日採集した幼虫の一部は7月7日蛹化（2頭）→休眠→10月31日（羽化後の死体1頭）。本種は屋久島でも海岸付近から山頂部までいくらかのセリ科植物を食草として生息しているから，黒島でボタンボウフウを食草として海岸付近に見られても不思議ではない。ただ，ボタンボウフウはあるのにトカラ列島にいない（宝島に1952年7月の記録あり）原因が分からない。ちなみに，黒島大里ではボタンボウフウの近くにヤブジラミ（すでに開花から結実期）の群落があり，畑にはニンジン（開花），パセリも栽培されていたが，これらの利用状況は不明である。

160 ナミアゲハ *Papilio xuthus*

26日，B～G，++；27日，B～O～I，++；28日，B～D～G，++；29日，片泊（B），++。

大里，中里，片泊の栽培ミカン（在来種？）とカラスザンショウ幼木に依存していると思われるが，今回は食樹の確認ができなかった。

161 モンキアゲハ *Papilio helenus*

26日，B～F～G，++；27日，I，++，カラスザンショウで中～終齢幼虫10頭。；28日，B～E～G，+大破個体。カラスザンショウに4齢幼虫1頭；29日，片泊（A），+。

採取した幼虫から7月17日1♀羽化。7月21日1♀羽化，標準より小さめの個体。

この島での主要な食樹カラスザンショウは樹林の伐採，道路工事，崖崩れ，牧場化などに伴うオープンランドに多数生えており，このチョウの個体数を支えているらしい。南薩の開聞岳山麓部ではカラスザンショウとハマセンダンが同じくらいあり，共に食樹となっているが，後者は黒島では少ないものらしく今回は発見出来なかった。植物目録にはやや稀とある。なお栽培ミカンの利用についても不明。

162 クロアゲハ *Papilio protenor*

27日，I，1頭目撃；28日，D，1♀カラスザンショウに産卵行動。

カラスザンショウが食樹のひとつであろうが，モンキアゲハなどとの関係は分からない。個体数はずっと少ないながらも，確実な土着種とみてよい。気になるといえば，非常に傷んだ成虫と新鮮な成虫，さらに卵から終齢幼虫までいろいろなステージが見られたことで，越冬状況や蛹の休眠性などの調査が必要である。

*ナガサキアゲハ：記録は多いが，今回は全く見られなかった。モンキアゲハとは周年経過に微妙な差があって，発生期の谷間だったのか。食樹候補としては栽培ミカンと野生のタチバナがあることになっている。

*シロオビアゲハ：迷蝶（データ不明）沖縄県黒島の誤認か？

<シロチョウ科 Pieridae >

163 モンキチョウ *Colias erate*

28日，大里のヘリポート草地（G），+。

時期の関係か個体数は少なく，発見した生息地も1ヶ所のみ。大里ではシロツメクサが食草と思われ，ネジバナで吸蜜していた。シロツメクサは崖の吹付植物としても繁茂していたから，このような場所も生息地となろう。ゲンゲ（レンゲソウ）の生える水田はなく，海辺の草地には他のウマゴヤシ類も見かけなかった。本種の定着性については良く分からないが，島外からの飛来があるかもしれない。

164 キチョウ *Eurema hecabe*

28日，B・G，メドハギに産卵。1♂2♀採。+。大里G+。

確認した食草メドハギは崖の吹付植物らしいが，各地の路傍にも少なくない。マメ科では他にも食餌植物となりそうな種があるが，九州本土で本種の好むネムノキは見えていない。

165 モンシロチョウ *Pieris rapae*

28日，大里（B）・片泊（G），+。どちらもキャベツ畑のみで見られた。

栽培アブラナ科に大きく依存しているだろうが、野生種としてはタネツケバナ、ミチバタガラシの2種が目録に出ているものの食草としての利用は不明。今回は中里林道の水飲み場にオランダガラシの群落があったが、シロチョウ類は来ていなかった。

*スジグロシロチョウ：1979年3月21日に大里で1♀の記録（新原，1979）がある。現時点では定着か否かの判断は出来ない。

<シジミチョウ科 Lycaenidae >

166 ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

29日，片泊（A），ハマナタマメのつぼみに本種と推定される卵が見られた。

成虫は見なかったが，すでに記録されており，おそらく夏から秋に増えるというパターンであろう。

167 アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*

28日，大里（G）。ムラサキシキブの花で1♀を採集。

記録では1995年9月大里黒瀬（1♂採集，他にも目撃）がある（江平・小野田）。越冬が確認されていないので，いちおう迷蝶とされている。今回の採集個体（1♀）は新鮮さからモクダチバナ（満開期を過ぎている）のつぼみか若葉で育ったものと思われる。するといくらかの越冬個体がいたのかもしれない。なお，ムラサキシキブには吸蜜のほか，産卵に来た可能性もあるが，卵は発見出来なかった。

168 ヤマトシジミ *Zezeeria maha*

26日，C～D，+；28日，D～E～F，++，カタバミに卵と卵殻。

記録の多い種であるが，食草のカタバミを確認した。カタバミは他地域と同じく全島のオーブンランドに広く見られる。

*ムラサキツバメ：1995年9月，大里黒瀬（1♂採集），他にも各地で目撃という記録がある（江平・小野田，1996）。食樹のマテバシイは優占種として群落をなしている場所もあり，中腹の樹林にも散在するので，このチョウがいてもおかしくない。ただ，秋の南下移動個体の有無は今後の注意事項であろう。

*ルリシジミ：1978年8月2日，1♂，片泊，1979年3月21日，大里，2♂1♀（新原，1979）。1982年8月4日，大里1♂1♀，8月5日，1♂（江平，1985）。以上のような記録からみて生息は確実であろうが，主要な食草になりうるマルバハギ，イタチハギ群落が崖地の吹付植物として多いので，このチョウの個体数に大きな関わりをもつと思われる。

*タイワンツバメシジミ：1986年10月13日，中里～片泊，4♂1♀という記録（畑田，1987）がある。

国の絶滅危惧Ⅰ類種。県本土では通常9月上旬に発生ピークをもつ本種が，黒島では10月中旬に♂が多いという発生期の違いが注目される。これは食草シバハギの開花期によるものと思われ，屋久島などとよく似ているらしい。黒島には予想に反してシバハギが全島の路傍，崖地，荒れ地に多く，このチョウもここでは多数生息している可能性が高い。四国，九州で絶滅

が危惧され、県本土でもその傾向がうかがえる中で、この島では多産するとすれば、原因はシバハギの多さにある。全島が高度成長期の四国、九州と同じような状況にある。リュウキュウチクという怪物のような植物が征服するまでは、オープンランドにシバハギは安泰であろう。なお、佐多町のように早咲きシバハギがあるのではと注意していたが、つぼみらしいものは全く見られなかった。前年の枯れた花穂もいくらかチェックしたが、卵殻は発見出来なかった。

* タイワンクロボシジミ：迷蝶の記録が「鹿児島と世界の大昆虫展」（1994年；鹿児島県立博物館発行の特別展図録）の分布表に出ているが、これはおそらく沖縄県黒島の誤認であろう。

<マダラチョウ科 Danaidae >

169 アサギマダラ *Parantica sita*

27日, K, 1 ♀ (汚損なし), 横岳山 (標高500m付近); 28日, H~I~O, 1 ♂ (小破個体); 29日, 片泊にサクラランはあるが食痕はついていなかった。

この時期には中央高地帯に多いのではないかと期待したが、一周道路周辺や中里林道などかなり広範囲に数頭が見られた。この島のガガイモ科はイヨカズラ, オキナワシタキズル, オオカモメズル, サクラランの4種で、いずれも稀またはやや稀級であるという。今回はキジョラン, ツルモウリンカの発見もねらって、既知種4種にも随分注意していたにも関わらず、サクラランを1ヶ所で見つけたのみである。したがって黒島のこの時期のアサギマダラが、ここでの羽化個体か島外からの飛来か、不明である。それにしても、ツルモウリンカが見つからなかったのは興味深い。このつる草は少し南にある口永良部島では普通種であるし、小宝島では牧場に牛が食べない群落が普通に見られた。黒島でも牧場に行けば牛に敬遠されたものが簡単にみつかると思っていたのは甘かった。竹島にはあるという。ガガイモ科のような風で種子を散布する植物の島毎の変異は、マダラチョウ類の生息とからめて面白い。

* リュウキュウアサギマダラ：迷蝶としての記録がある。食草のツルモウリンカが上記のような状況では、本種の発生、定着はむずかしい。

* カバマダラ：片泊小学校に日付不明の標本があった (溝口, 1977)。1995年9月大黒黒瀬で1頭目撃 (江平・小野田)。

大里の畑に開花中のフウセントウワタが3本あったが、食痕も卵・幼虫も発見出来なかった。アブラムシなどがついていたので、殺虫剤は散布されていないと思う。トウワタは見つからなかった。

* スジグロカバマダラ：1982年8月6日, 大里。1 ♂ (江平, 1985)。迷蝶。

<タテハチョウ科 Nymphalidae >

170 ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

26日, B~D, ++; 27日, B~O~I, ++, 1 ♀がタチツボスミレに産卵。28日, B~D~E~G, ++, 大破1 ♀が産卵; 29日, 片泊 (A), スミレの1種 (リュウキュウコスミレ?) に中齢幼虫1頭。

発生期のピーク後半にあたるらしく、♂は少なく、産卵を急ぐ汚損♀が多かった。しかし新鮮な未交尾らしい1♀に交尾行動中の♂もいたので、多少の発生期のバラツキがあるだろう。路傍にはツボスミレとリュウキュウコスミレ(?)が多く、学校の花壇には花期の過ぎたパンジーもあった。採集した卵、幼虫は若齢期をタチツボスミレで後はスミレで飼育し羽化させた。

九州以北の記録によるとタチツボスミレなど有茎スミレ類は食草にならないと言われるが、鹿兒島市内では終齢幼虫が食い尽くす事態がみられる。今回のように母チョウが産卵する事例は初めてのことで、若齢幼虫の摂食も認められた。

171 アカタテハ *Vanessa indika*

26日, B, ++カラムシで幼虫。28日, B~D~E, +成虫ほかカラムシに幼虫。採集した幼虫はカラムシで飼育。7月15日1頭羽化。

この島でも人里, 路傍に多いカラムシが主要な食草である。低地にはニオウマオウも多いが、今回は幼虫を発見することが出来なかった。これは食草にならないか、あるいは利用率の低い植物と思われる。

172 ルリタテハ *Kaniska canace*

26日, E~H~J, ++; 27日, E~H~J, +; 28日, 各地+大破個体; 29日, 片泊(B), ハマサルトリイバラに1卵, 若齢幼虫2頭, 中齢幼虫1頭。採集後サルトリイバラで飼育。7月19日1頭羽化。

この島の普通種の一つである。食草はハマサルトリイバラが確認された。成虫の斑紋については、九州以北との差異がなく同じ亜種 *nojaponica* であるという(猪又, 2000)。

173 イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

27日, I, 1♀がイヌビワに産卵。卵1個, 若齢幼虫5頭, 中齢幼虫1頭採集; 28日, 南道路(M)で産卵1♀あり。

食樹イヌビワを確認。終齢幼虫の黒紋の現れ方は県本土産と同じであった。

*ヒメアカタテハ 今回は未確認。

*タテハモドキ: 1982年8月6日, 1♂。大里。(江平, 1985)。本種は食草として水田・湿地に生えるオギノツメ, スズメノトウガラシを利用しているか, または海岸のイワダレソウを利用しているかである。この島にはスズメノトウガラシしか記録はない。水田は現在見られないので, このチョウは生息していないのかもしれない。

*リュウキュウムラサキ: 1982年8月3~5日, 大里, 片泊, 4♂1♀(江平, 1985)。迷蝶。

<ジャノメチョウ科 Satyridae >

*ウスイロコノマチョウ: 1982年8月3日, 1♂。大里。(江平, 1985)。

迷蝶としてはかなりの頻度で飛来, 発生するものであろう。越冬個体がいる可能性もある。

*クロコノマチョウ: 1977年3月25日~4月2日, 片泊。1頭目撃(溝口, 1977)。定着は未確認。

2 今回の調査における注目すべき昆虫類

今回の調査では、全部で57科173種の昆虫が確認できた。内訳はトンボ目（2科3種）、ゴキブリ目（1科1種）、バッタ目（5科8種）、ナナフシ目（1科1種）、ハサミムシ目（1科1種）、カメムシ目（7科12種）、コウチュウ目（15科51種）、ハチ目（5科6種）、ハエ目（1科1種）、ガ類（13科71種）、チョウ類（6科18種）であった。この中で注目すべき昆虫として下記をあげたい。

これまで黒島のバッタ目は、11科20種が確認されている(山下, 2001)。今回の調査では、タンボコオロギ（コオロギ科）、サトクダマキモドキ（キリギリス科）、ヒシバッタ（ヒシバッタ科）、ハネナガヒシバッタ（ヒシバッタ科）の4種が初記録種として確認できた。これで黒島のバッタ目は12科24種が明らかになった。

ゴミムシダマシ科のシワナガキマワリのなかまはシワナガキマワリとヤクシワナガキマワリの2種が生息していた。ヤクシワナガキマワリは前脛節基部近くの内側が膨らみ、中央付近で軽く屈折している。シワナガキマワリの前脛節は直線状である。同定には注意が必要である。

アカモンキゴミムシダマシは赤褐色斑が強く地色の黒色部は円紋状になっており、黒島を北限に南西諸島に分布するモンキゴミムシダマシの近縁種である。

ガ類69種のうち55種は初記録種である。この中でヤガ科のオキナワウスイロコヤガは奄美大島、沖縄本島、屋久島に分布しており、本土からは発見されていない。今回の調査で黒島が分布北限にあたることが確認された。

ハンダロキノメイガもこれまで屋久島、奄美大島、西表島で少数の個体しか採取されていない稀少種である。

ミヤケジマヨトウは三宅島で発見されたのでこの名がある。大牟田市や室戸岬で採集されているが全国的に極めて稀な種である。鹿児島県内では1993年に中之島と宝島で数頭、1995年に栗野岳で1頭採集されている。

3 セミ類とチョウ類からみた黒島の昆虫相

黒島の昆虫相はまだ全容を解明するには調査不足であるが、比較的資料の揃ったチョウ類とセミ類からいくつかの検討を行い、今後の課題などを考えたい。問題点としては次のようなことが考えられる。

- (1) 6300年前の鬼界カルデラを形成した大噴火、それに伴う幸屋火砕流（アカホヤ）の影響をどのように受けているか。その時点で生存あるいは絶滅した昆虫類はどれか。
- (2) 島が形成された後に海を渡って飛来し、定着できた種、定着できない種はどのようなものか。
- (3) 他の島とこの程度離れ、この面積をもつ黒島では、最終的には何種類が生息できるだろうか（種数の飽和度）。

方法としては、黒島での諸調査のほか、近隣の九州本島、竹島・硫黄島、種子島・屋久島、あるいは口永良部島、トカラの島々と比較が有効である。

昆虫類の生息を支える植物相については、すでに1964年初島住彦は山頂部のアカガシ、ハラン、スズタケなどは、寒冷期に薩摩半島とつながっていた時代の遺存種であろうと指摘している。植物の全種リスト（目録）は1983年の時点で迫静男・丸野勝敏のまとめがあり、その後の植物相の人為的な破壊・変動は、寺田仁志(1996)が作成した現存植生図でも明らかである。

昆虫類はチョウやトンボのように移動性の大きいものから、羽のない地表性の甲虫類のようなものまである。これらは考察にあたって十分留意しながら、セミ類とチョウ類を予報的に検討する。

セミ類

カメムシ目のセミ科は幼虫の地中生活、成虫の飛行状況からみて、自力による移動性の小さな昆虫群のように思われる。しかし、火砕流の洗礼を受けて壊滅したともいわれる三島にセミが住んでいることをどう考えればよいただろうか。黒島からは次の6種の記録がある。

ニイニイゼミ、クマゼミ、アブラゼミ、ヒメハルゼミ、ツクツクボウシ、クロイワツクツク

この中には島の特産種も、分布の南限種もない。北限種としてはクロイワツクツクがある。本種は東側は大隅半島の佐多町が分布北限であるのに対し、薩摩半島には定着していないから、黒島は西側の北限地といえよう。硫黄島のセミの記録は、小野正則による1999年8月の調査報告が唯一のものである（小野，2000）。それによるとニイニイゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ、クロイワツクツクの4種が多かったという。竹島からの記録は見られないが、おそらく似たものであろう。黒島にいるヒメハルゼミの記録を欠くのは、時期の関係（6～7月に出現）かと思われるが、屋久島が分布南限となるアブラゼミの脱落原因は分からない。

黒島のセミ相は、薩摩半島にいるハルゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、屋久島特産種のヤクシマエゾゼミを欠いているが、薩摩半島や屋久島のそれと基本的には同じとみてよい。トカラ列島も黒島と同様なセミ相をもつ島が多いが、今後はクマゼミの腹部白帯などによる島毎の地理的変異の調査が期待される。

チョウ類

これまでに黒島のチョウ類は、セセリチョウ科5種、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科4種、シジミチョウ科6種、テングチョウ科0種、マダラチョウ科4種、タテハチョウ科7種、ジャノメチョウ科2種、総計36種が記録されている。

これを移動性に着目して分けると次のようになる。これはアサギマダラを除けば、マーキング調査などで移動性を確認したものでなく、各地で得られる迷蝶としての記録、トカラ列島をふくむ小島嶼でのチョウ類の記録などからの推定である。いくらか人為的な搬入もあるかもしれない。

- ① 移動性が大きく現在でも飛来頻度が高いと思われる種：イチモンジセセリ；モンシロチョウ；ウラナミシジミ，アマミウラナミシジミ，ムラサキツバメ；アサギマダラ，リュウキュウアサギマダラ，カバマダラ，スジグロカバマダラ；アカタテハ，ヒメアカタテハ，タテハモドキ；ウスイロコノマチョウ。計13種（36%）
- ② 通常はあまり移動しないが、この程度の距離なら若干の飛来個体がいる可能性がある種：チャバネセセリ*，オオシロモンセセリ，クロセセリ；ミカドアゲハ，アオスジアゲハ，キアゲ

ハ、ナミアゲハ、クロアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ；キチョウ；ヤマトシジミ*、ルリシジミ、タイワンツバメシジミ；ルリタテハ、イシガケチョウ；クロコノマチョウ。

計17種（47%）。*印は移動性が高い可能性をもつ。

- ③ 近隣地域からの飛来の可能性が低い種：キマダラセセリ；スジグロシロチョウ。計2種。

以上のように、大部分の種が海を渡って飛来、定着する可能性を持つ。③群でも現時点では遺存種的なものとは断定できない。

一方、近隣地域（県本土、種子島・屋久島、トカラ列島）に生息していながら、黒島で未記録の種がいる。これらは飛来しないのか、飛来しても定着できないのか、その原因を食餌植物を中心に検討しておきたい。

- ① 食餌植物がない：ジャコウアゲハ（ウマノスズクサ類。トカラ列島にもない）、ツマベニチョウ（ギョボク。近隣地域には多い）
- ② 食餌植物が極めて少ない：アオバセセリ・スミナガシ（ヤマビワ）、テングチョウ（エノキ類）。さらに類するものにムラサキシジミ（アカガシはあるが、アラカシがない）、ベニシジミ（ギシギシはあるがスイバはない）
- ③ 食餌植物はあるのにいない種：

- ・ イネ科・カヤツリグサ科など単子葉植物を食草とするセセリチョウ科（ホソバセセリ、オオチャバナセセリ）、ジャノメチョウ科（ウラナミジャノメ属、ヒメジャノメ属、クロヒカゲ属、キマダラヒカゲ属）。
- ・ カラスザンショウ、ミカン類を食樹とするアゲハチョウ科（カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ）。南薩には両種とも生息しており、種子島・屋久島にはミヤマカラスアゲハのみ、トカラ列島にはカラスアゲハのみが分布している。黒島にもどちらかの種がいてもおかしくないし、どちらの種がいるか興味深い。現在生息しない原因は不明であるが、ハマセンダンが少ないことが関係するだろうか。
- ・ アブラナ科食のツマキチョウがいない。迫・丸野(1983)の目録にはツマキチョウの食草となるアブラナ科植物は、タネツケバナ（路傍・耕地、普通）、ミチバタガラシ（路傍、やや稀）の2種がある。今回の調査ではオランダガラシも見つかったし、栽培の野菜類は多かった。なお、栽培アブラナのカブ、チンゲンサイ、オオアラセイトウが食草としてよく利用されていることは、近年志布志で明らかになった。（林，2001）。このチョウは南薩や種子島・屋久島（分布南限地）では安定した発生を続けている。しかし、成虫は年1回3月下旬から4月に出現するだけなので、黒島に飛来する可能性は少ない。
- ・ マメ科食のツバメシジミ、ウラギンシジミ、コミスジがいない。食草カワラケツメイは少ないらしいが、ツマグロキチョウも未記録である。いずれも近隣地域では決して少ないチョウではない。

以上のように見てくると、まだ黒島のチョウ相成立の過程は不明ながら今後植物相の推移とチョウの記録を積み上げていけば、隣の硫黄島、竹島とともに昆虫の移動、定着の研究舞台として興味深いものがある。

仙田 昇, 1970. 三島村黒島の蝶。SATSUMA 19 (56) : 27.

1969年8月7~15日, キアゲハ, クロアゲハ, モンシロチョウ, ヤマトシジミ, ツマグロヒョウモン。

仙田 昇・大木洋一, 1970. 近年の鹿児島県産カミキリムシの記録。SATSUMA 19 (56) : 27.

櫛下町鉦敏, 1975. 上和田秀美氏の黒島産チョウ類。SATSUMA 24 (69) : 15.

1974年10月4~5日, クロセセリ, モンキアゲハ, ナガサキアゲハ, ヤマトシジミ, ツマグロヒョウモン, ルリタテハ。

溝口文男, 1977. 黒島春の昆虫。SATSUMA 26 (73) : 34.

1977年3月25日~4月2日。チョウ類9種, トンボ1種。

Makihara, H. 1977. Cerambycidae of Kuroshima island, with description of two new species and two new subspecies (coleoptera). Esakia 10 : 45-69

山脇好之, 1978. 6月に採集した黒島(鹿児島県)のカミキリムシ科(1977)。北九州の昆虫 24 (3) : 101-104.

1977年6月21~26日, カミキリムシ24種。

藤田 宏, 1978. 無名採集地ルポ; 鹿児島県三島村。月刊むし (92) : 16-25.

1978年7月6~11日, 7月14~15日。チョウ15種。甲虫100種。

新原修一, 1979. 三島村黒島・若干の採集記録。SATSUMA 28 (80) : 86-89.

1978年7月26日~8月3日, 1979年3月18~23日, チョウ15種, 甲虫26種, トンボ2種, セミ2種の記録。

平峯宏紀, 1981. 鹿児島県のトンボ・分布資料一離島編一。SATSUMA 30 (85) : 143-172

中根猛彦, 1983. 鹿児島県の甲虫の記録3ー私の所蔵標本からータマムシ科。SATSUMA 32(90) : 253-256

江平憲治, 1985. 三島村黒島の昆虫類。SATSUMA 34 (94) : 112-115.

1982年8月3~8日, トンボ9種, チョウ17種, セミ6種の記録。

畑田憲治, 1987. 黒島の昆虫相(第1報)。鹿児島県立博物館研究報告(6) : 9-12.

1986年10月10~14日, チョウ類14種, ガ類33種。科

森 一規, 1988. 鹿児島県産カミキリムシ分布表。SATSUMA 37 (100) : 119-148.

大坪修一・田中洋. 鹿児島県産蝶類・市町村島別分布表。SATSUMA 37 (100) : 223-238.

行田義三, 1989. 三島村に住んでいる昆虫。郷土読本・ふるさと三島 : 129-158. 三島村教育委員会

平川忠久, 1992. 1991年・三島村黒島のアサギマダラ。SATSUMA 40(105) : 98

1991年9月~11月の目撃・マーキング記録

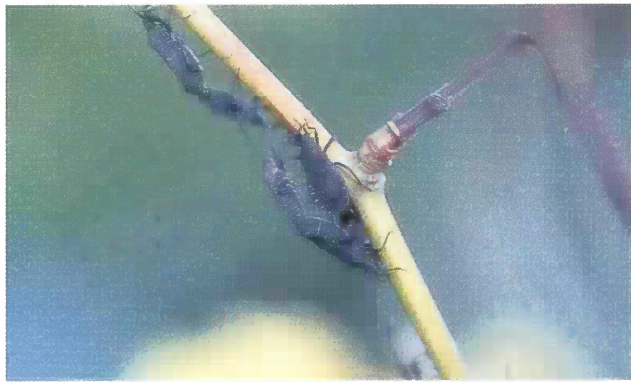
清水敏夫・村山聡則・倉橋伴知, 1995. 鹿児島県三島村におけるクワガタムシの変異。月刊むし (292) : 22-28

- 西谷 亮, 1995. ヒラタクワガタ鹿児島県三島村黒島に産す。月刊むし (292) : 42
- 江平憲治・小野田繁, 1996. 鹿児島県・黒島の昆虫類。鹿児島県立博物館研究報告 (15) : 39-48.
- 山根正気, 1988. 琉球列島のスズメバチ。SATSUMA 37 (100) : 161-174
- 山下秋厚, 2000. 鹿児島県三島村におけるバツタ目の分布。SATSUMA 50 (121) : 41-50.
- 藤田 宏, 2000. 離島のクワガタムシ採集紀行1. 鹿児島県黒島。月刊むし (353) : 30-42.
- 猪又敏男, 2000. 鹿児島県黒島のルリタテハ。月刊むし (353) : 46-49.
- 山下秋厚, 2001. 鹿児島県内バツタ目の分布。SATSUMA51 (124) : 133-165
- *小野正則, 2000. 鹿児島県硫黄島のクワガタ採集記。北九州の昆虫 47 (1) : 49-50
硫黄島のその他の甲虫, チョウ, セミの記録もある。
- *林 悦子, 2001. ツマキチョウの食草としての栽培アブラナ科植物について。SATSUMA 51 (123) : 31-33
- [植物]
- 初島住彦, 1964. 鹿児島島の植物。鹿児島島の自然:35-88 (鹿児島県理科教育協会)
- 迫 静男・丸野勝敏, 1983. 黒島の植物。鹿児島大学農学部演習林報告 (11) : 33-78.
- 寺田仁志, 1996. 鹿児島県・黒島の植生と現存植生図。鹿児島県立博物館研究報告 (15) : 9-38.

黒島の昆虫



カラスザンショウについたニイニイゼミ



ツマキヘリカメムシの集団



ナガゴマフカミキリ



サビアヤカミキリ



イシガケチョウ幼虫



タチツボスミレに産卵するツマグロヒョウモン



カラムシにつくガの幼虫



バナナトラップにきたオオトモエとウスオビクチバ